



Corporate Report
2015

日清オイリオグループ
コーポレートレポート

“植物のチカラ”[®]

すべては、“植物のチカラ”[®]から。

日清オイリオグループのコーポレートステートメントは“植物のチカラ”[®]。

わたしたちの事業は、植物資源の可能性を最大限に引き出し、

人々の生活をさらに豊かにすることです。

植物がもつ3つのチカラ、

「おいしくするチカラ」「健康にするチカラ」「美しくするチカラ」は、

人や事業を動かすチカラでもあるのです。

わたしたちの行動と事業のベースは、常に“植物のチカラ”[®]です。

目次

トップメッセージ	3	日清オイリオグループのCSR	16
日清オイリオグループ108年のあゆみ	4	マネジメント	18
日清オイリオグループの事業	6	CSR活動の実績	20
特集 “植物のチカラ” [®] を活かし 「食」を通じて社会課題を解決します	12	ステークホルダーに対する取り組み	22
		第三者意見	29
		会社概要	30
		財務データ	32
		編集方針	34
		カラダにいいことたくさん、植物油!	35

トップメッセージ

「おいしさ・健康・美」の
追求を通して、
社会に貢献します。



日清オイリオグループは、創業以来100年以上の長きにわたり、植物が持つ3つのチカラ、「おいしくするチカラ」「健康にするチカラ」「美しくするチカラ」を最高の技術によって引き出し、世の中にお届けしてきました。

現在、当社グループは、2014年度からの3年間の中期経営計画を推進しており、強力なブランド力と独創的かつ優位性のある技術を武器に油脂と油脂から派生する事業をグローバルに展開する企業グループを目指し、油脂・油糧事業、加工油脂事業、ファインケミカル事業、ヘルシーフーズ事業を展開しています。

また、中期経営計画の柱のひとつである、中鎖脂肪酸事業について、これまで以上に取り組みを強化していきます。「中鎖脂肪酸」については、「エネルギーになりやすい」という特長に加えて、最近では、脳のエネルギー不足に役立つ可能性も出てきており、社会の関心と期待が集まっています。当社グループでは、中鎖脂肪酸は多様な機能によって、乳幼児から高齢者まで、人々のライフステージに応じた健やかな毎日をサポートしていける可能性を持つ成分であると考えています。40年以上にわたって中鎖脂肪酸の研究・開発に取り組んできた当社グループの技術・ノウハウを活かし、中鎖脂肪酸のチカラを引き出すことで、皆様の健康的な生活を支えるとともに、社会の期待に応えてまいります。

安全で安心できる商品・サービスを安定的に提供し続けることが、私たち食品メーカーの使命であります。そして、食品メーカーとして当社がこだわり続けているのが「おいしさ・健康・美」です。「食」とは私たちが生きていくために欠かせないものであるだけでなく、人々の生活を豊かにし、喜びや感動を与えてくれるものでもあります。当社グループならではの技術力で植物の持つ可能性を引き出し、新たな価値の創造に常に挑戦し続けていきます。

当社グループはアジアを中心にさまざまな国で事業展開しており、グローバル企業として成長し続けることで、持続可能な社会づくりに貢献できるものと考えています。2011年のグローバル・コンパクトへの参加は、その意思表示でもあります。

世界の旺盛な食糧需要による穀物価格の高値推移、日本国内の少子高齢化の進展など、当社グループを取り巻く環境は厳しさを増していますが、これからも「おいしさ・健康・美」の追求を通して、人々の食生活を支えるとともに、すべてのステークホルダーの期待に応えることで、社会に貢献してまいります。

日清オイリオグループ株式会社
代表取締役社長

今村隆郎

日清オイリオグループ 108年のあゆみ



1927年頃の「日清サラダ油」と雑誌広告



1956年のギフトセットと1959年の新聞広告



「日清マヨドレ」(1980年)

1907年～

1907年

大倉喜八郎、松下久治郎により「日清豆粕製造株式会社」の名称で創立

1918年

社名を「日清製油株式会社」に改め、横浜市にあった松下商店および松下豆粕製造所(旧横浜神奈川工場)を吸収合併

1924年

日本ではじめてのサラダ油、「日清サラダ油」を発売

1947年

「東浜油脂株式会社」を設立(当時・東濱油脂化学工業株式会社)

1948年

「日本興油工業株式会社」を設立(当時・日本糧油工業株式会社)

1957年

日本興油工業株式会社の水島工場(現・水島工場)を竣工

1958年

顆粒状レシチンの国産化に成功

1959年

日清製油株式会社が「攝津製油株式会社(創立1889年)」の経営に参加

研究部を独立させ、日清製油研究所を開設

1962年

東浜油脂株式会社の名古屋工場(現・名古屋工場)を竣工

1963年

横浜磯子工場(現・横浜磯子事業場)の第一期工事を完了し、操業を開始

1966年

横浜磯子工場の第二期工事を完了し、操業を開始

東浜油脂株式会社の社名を「リノール油脂株式会社」に変更

1967年

繊維状大豆たん白「ソイミー」の製造に成功

1969年

日清製油株式会社が「リノール油脂株式会社」の経営に参加

1970年

中鎖脂肪酸のグリセリンエステル「O.D.O」を発売

1973年

ファインケミカル事業に本格参入

1980年

丸紅株式会社と日清製油株式会社の出資により「ニッコー製油株式会社」を設立

純植物性マヨネーズタイプ調味料「日清マヨドレ」を発売

「日清」の由来

日本の「日」と清国(現在の中国)の「清」から名づけられました。創業期は東京に本社、大連に支店・工場を設け、大豆を原料とする大豆油、大豆粕の製造加工、貿易を業務としました。

本社社屋の工事現場から小判を発掘

1963年、本社社屋の増築のため地下工事を始めた矢先、大量の天保小判や二朱金が大量に、2回にわたり発掘されました。発掘された小判や二朱金は、時価にして合わせて6,000万円は下らないとも報道されました。小判や二朱金は持ち主に手渡されましたが、感謝の意を込めて贈られた数枚は、現在でも本家で保管しています。



大久マーク(1918年)



日清製油研究所(1959年)



横浜磯子工場(1963年)



中央研究所(1995年)

皆様のご家庭でおなじみのサラダ油もキャノーラ油も、始まりは日清オイリオグループから。100年以上の長い歴史の中で培ってきた技術や知識、経験を活かし、“植物のチカラ®”を最大限に引き出し、これからも世の中に新しい価値をお届けしていきます。



「日清キャノーラ油」(1992年)



「BOSCO オリーブオイル」(1996年)



「ヘルシーリセット」(2003年)



「日清ヘルシーごま香油」(2008年)



「日清ヘルシーベジオイル」(2013年)

2001年～

1988年

中国の大連に合弁会社「大連日清製油有限公司(現・中糧日清(大連)有限公司)」を設立

1992年

「日清キャノーラ油」を発売

1995年

横須賀市久里浜に日清製油新研究所(現・中央研究所)を竣工

横浜磯子工場にコージェネレーションシステムを導入

1996年

「BOSCO オリーブオイル」を発売

1999年

堺事業場が本格稼働を開始

2000年

「環境報告書」を発行

2002年

日清製油株式会社、リノール油脂株式会社、ニッコー製油株式会社の3社が経営統合し、日清オイリオグループ誕生

2003年

特定保健用食品「ヘルシーリセット」を発売

2004年

特定保健用食品「ヘルシーコレステ」を発売

日清オイリオグループ株式会社、日清オイリオ株式会社、リノール油脂株式会社、ニッコー製油株式会社の4社合併により、「日清オイリオグループ株式会社」誕生

2005年

マレーシアの「Intercontinental Specialty Fats Sdn. Bhd. (ISF)」に資本参加

2006年

「日清オイリオグループ CSR報告書」を発行

2007年

創立100周年を迎える

2008年

「日清ヘルシーごま香油」を発売

2009年

「大東カカオ株式会社」に資本参加

家庭用食用油に「酸化ブロック製法」を導入

2011年

スペインの「Industrial Química Lasem, S.A.U. (IQL)」に資本参加

「国連グローバル・コンパクト」に参加

2012年

「RSPO(Roundtable on Sustainable Palm Oil)」に加盟

2013年

「日清ヘルシーベジオイル」を発売

2014年

大連日清製油有限公司の出資持分の51%を中国食品大手のCOFCOグループに譲渡し、会社名を「中糧日清(大連)有限公司」として再スタート

「Oillio」に込めた意志

「Oil」にOilを反転した「lio」を組み合わせた「Oillio」には、製油業の原点を大切にしながら、食用油の領域を超え、ファインケミカル事業やヘルシーフーズ事業などの新しい分野へ、次々とチャレンジしていくという意志を込めています。



堺事業場(1999年)



3社経営統合(2002年)



ISF(2005年)



IQL(2011年)

日清オイリオグループの事業

※ 売上高構成比は2014年度

売上高
構成比
64.7%

油脂・油糧事業

食用油や油粕（ミール）など油脂原料の持つ“植物のチカラ®”を最大限に活かし、毎日の食生活を支えるとともに、独自の技術による高付加価値商品を常に提案しています。

食用油は、キッチンや食卓で使用する家庭用食用油、外食店や給食施設で使用する業務用食用油、マヨネーズやスナック菓子などの食品に使用する加工用食用油として販売しています。油粕（ミール）は飼料や肥料用、加工食品用途として販売しています。そのほか、大豆たん白や大豆粉末、食品大豆を販売しており、さまざまな食品に使われています。



家庭用食用油



業務用食用油



油粕、食品大豆、大豆たん白



売上高
構成比

27.7%

加工油脂事業

豊富な種類の食用油を活用し、マーガリン、ショートニング、チョコレート用油脂などを国内外の生産拠点で製造、日本やマレーシア、欧州をはじめとし、グローバルに販売しています。

当社グループの技術で油脂を加工することで、チョコレート・アイスクリームなどの菓子やパンといった加工食品のおいしさを最大限に引き出す、付加価値の高い油脂を作り出すことができます。



売上高
構成比

4.4%

ファインケミカル事業

植物資源をベースに独自の技術を活用し、化粧品原料や潤滑油、中鎖脂肪酸油など、付加価値の高い機能性素材をさまざまな産業分野へ提供しています。



売上高
構成比

2.1%

ヘルシーフーズ事業

より多くの皆様に役立つ食品の提供を通じて、健康的で美しい生活を提案しています。健康をコンセプトにしたドレッシング類やマヨネーズタイプの調味料、生活習慣対応食品、高齢者・介護食品、治療関連食品などを販売しています。



※ これらのほかにその他事業の売上高構成比が1.1%あります。



独創的で高い技術力により商品を生み出しています。



当社グループでは横須賀にある中央研究所を中心に、油脂の基礎研究から、新商品の開発まで幅広いテーマについて、研究員一人ひとりが新しい発想と探究心を持って取り組んでいます。

お客様のニーズにあわせた商品開発のための土台となる基礎研究では、油脂のおいしさや健康性、物性など、新たな可能性を求めて研究に取り組んでいます。新商品の開発では、事業部門や生産部門と協働し、機能性油脂や、天然の成分や風味を活かした商品の開発を行っています。

海外においてはマレーシアに研究開発拠点「Nisshin Global Research Center Sdn. Bhd.」を設立しました。同国の子会社ISFと連携を深めながらグローバルな展開を見据えた研究開発に取り組んでいます。

2017年には、現在の中央研究所を横浜磯子事業場内に移転することを予定しています。生産と研究開発の融合、本社機能との連携を一層強化することで、商品開発、技術開発のスピードアップを図り、お客様の求める商品・価値を提供していきます。



研究開発



調達

製造

販売

世界各国の品種や産地を的確に選択し、 原料の安定調達に努めています。



日本の製油産業は、油脂原料のほとんどを海外に依存しています。たとえば、大豆はアメリカやブラジルから、菜種はカナダやオーストラリアから。

近年、世界的な人口増加やバイオ燃料の需要増加により、穀物の需要構造が大きく変化しています。当社グ

ループでは、天候や収穫量の増減、世界の需給バランス、穀物の国際相場などを素早く的確に把握、最適な産地から良質な油脂原料を調達し、安全で安心できる商品を安定供給できるように努めています。



大豆

アメリカ、ブラジル、アルゼンチン



キャノーラ (菜種)

カナダ、オーストラリア



パーム

マレーシア、インドネシア



胡麻

ナイジェリア、タンザニア、ブルキナファソ



オリーブ

イタリア、スペイン



べに花 (サフラワー)

アメリカ、メキシコ



亜麻仁 (フラックス)

カナダ、アメリカ



綿実

アメリカ、オーストラリア



グレープシード (ぶどう)

フランス



コーン (とうもろこし)

アメリカ



ひまわり

アメリカ、アルゼンチン、フランス



こめ

日本、タイ、ベトナム



ヤシ (コブラ)

フィリピン

国内外の各拠点で、 フレキシブルで競争力のある生産体制を構築しています。



日清オイログループは、国内外に生産拠点を持ち、お客様のニーズに対応した高品質な商品を提供し続けています。

国内に4カ所ある生産拠点のうち、「横浜磯子事業場」「名古屋工場」「水島工場」の3拠点は、6万トンクラスの大船が接岸できる埠頭を持ち、原料の荷揚げから搾油・精製までを一貫して行っています。「堺事業場」は精製専用の生産拠点です。海外においては、マレーシアのIntercontinental Specialty Fats Sdn. Bhd. (ISF)でパーム油脂やチョコレート用油脂を製造、またスペイン

のIndustrial Química Lasem, S.A.U. (IQL)では化粧品原料や中鎖脂肪酸油の製造を行うなど、グローバルに生産基盤を構築しています。原料事情や社会・経済環境を見据えながら、各拠点それぞれが機能や設備、立地を活かし、フレキシブルで競争力のある生産を行っています。

食品メーカーとして大切にしているのは、安全で安心できる商品をお届けすること。当社グループでは国内外の生産拠点で、商品や事業特性に応じ、品質マネジメントシステムや、食品安全マネジメントシステムの認証を取得し、安全・安心を確保するための活動を進めています。



横浜磯子事業場

所在地：神奈川県横浜市
敷地面積：233,000㎡
サイロ貯蔵能力：111,000t (大豆換算)



名古屋工場

所在地：愛知県名古屋市
敷地面積：98,800㎡
サイロ貯蔵能力：74,500t (大豆換算)



堺事業場

所在地：大阪府堺市
敷地面積：39,700㎡



水島工場

所在地：岡山県倉敷市
敷地面積：118,000㎡
サイロ貯蔵能力：54,340t (大豆換算)

研究開発

調達

製造

販売

安全・安心な商品をお届けするのが私たちの仕事です。



私たちの営業活動の基本は、お客様の立場に立った提案型販売にあります。

家庭用食品の営業では、主に量販店に対して、棚割提案や売り場企画としての共同キャンペーン、旬の食材を使ったメニュー提案などを通じて、売り場の活性化に貢献しています。

業務用食品の営業は、レストランなどの外食店や、中食と呼ばれる量販店の総菜売り場等に対して、世の中の生活トレンドをふまえたメニューや食シーンを提案するとともに、食用油の上手な使い方や揚げ物の品質向上のサポートも行っています。



加工油脂の営業は、マーガリンやショートニング、チョコレート用油脂などを製菓・製パン等の加工食品メーカーに対し販売。当社グループの油脂加工技術を駆使し、チョコレート・アイスクリームといった菓子やパンなど、取引先の商品開発をサポートしています。

提案型営業を支えるのが技術サポート。当社では、グループの持つ技術・情報を総合的に活用し、さまざまな課題解決に取り組むユーザーサポートセンターを設置、「顧客満足」につながる提案活動を展開しています。

消費者の皆様からの商品やサービスに関するご質問・ご意見などは、社内の「お客様相談窓口」にて受け付けています。専任の当社従業員が、電話やメール、手紙などで寄せられたご質問やご意見に対し、迅速・ていねいに回答するとともに、いただいたお客様の声を商品開発に活かしています。また、ホームページではお客様からのよくあるご質問を掲載し、商品を安心して使っていただけるサポート体制を整えています。

“植物のチカラ[®]”を活かし 「食」を通じて社会課題を解決します

特集

1

「食」を通じた高齢社会への貢献

わが国は、世界のどの国も経験したことがない高齢社会を迎えています。そんな社会の変化に先駆けて、日清オイリオグループでは、高齢者向けの食品の開発・販売に取り組んできました。

やがて約2.5人に1人が65歳以上に

わが国では、総人口が減少に転じるとともに、高齢者の占める割合が年々高まっています。現在、すでに25%を超えて、国民の4人に1人が65歳以上の高齢者です。その割合は今後さらに高まり、2060年には約2.5人に1人が65歳以上、4人に1人が75歳以上という社会が到来するといわれています^{※1}。

このように社会が変化していく中、私たちの暮らしの基本である「食」のあり方も変わっていきます。現在、病院や高齢者施設で主に利用されている高齢者向け食品が今後はさらに広がり、スーパーマーケットなどの棚で普通に見かけるようになるかもしれません。

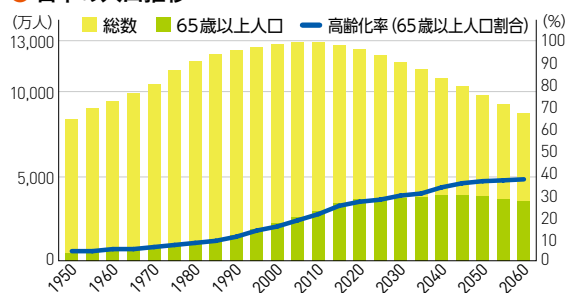
当社グループは、体に欠かせない栄養源である「油」を通じて培ってきた知識や技術を活かし、高齢者向け食品にいち早く取り組んできました。その歴

史は、1988年に発売したたんぱく質調整食品にまでさかのぼります。1991年には、画期的なトロミ調整食品を発売。現在、「介護高齢者用食品」「MCT^{※2}補給食品」「エネルギー・たんぱく質補給食品」の大きく3つの分野で、当社グループならではの多彩な商品を提供しています。

※1 内閣府、平成26年版高齢社会白書

※2 Medium Chain Triglyceride / 中鎖脂肪酸油

● 日本の人口推移



内閣府、平成26年版高齢社会白書

栄養とおいしさへのこだわり

高齢になると、噛んだり(咀嚼)、飲み込んだり(嚥下)といった「食べる」ための力が衰えてきます。食べ物や飲み物に適度なトロミをつけることによって、このような状態をサポートし、食べやすくするのが「トロミ調整食品」です。当社グループが提供するトロミ調整食品は、それまで主流だったでんぷんや片栗粉に代わって植物繊維を用いることで飲み込みやすさを格段に改良したものです。栄養士向けの教科書にも掲載されるなど認知度も高く、全国の栄養士の方々からとても高く評価されています。

また、消化吸収されやすくエネルギーになりやすい中鎖脂肪酸を用いた商品も最近注目を集めています。

食が細くなるなどの理由から、エネルギーやたんぱく質が不足する「低栄養」は、高齢者にとって非常に深刻な問題。当社では、中鎖脂肪酸がこの低栄養の改善に有用であることを確認しています^{※3}。

そして、当社グループが食品メーカーとしてこだわり続けているのが「おいしさ」です。どんなに栄養が豊富でも、食べる楽しさや喜びがない食事を提供するわけにはいきません。黒飴味やあずき味など、高齢者にとって親しみやすい味の商品をラインアップしているほか、お豆腐と同じような感覚でエネルギー・たんぱく質を補給できる食品など独創的な商品を揃えています。

※3 野坂直久ら、日本臨床栄養学会雑誌 第32巻, p52-61, 2010

病院や施設から、在宅での「食」へ

こうした当社の商品は、これまで病院や介護施設の現場で多く利用されてきました。病院や施設の栄養士の方によって、さまざまな工夫を凝らした新たなメニュー開発の取り組みが行われています。当社ではこうした現場の声を聞き、さらに便利に美味しく料理に使っていただけるよう商品開発やレシピ作りなどを行っています。

また、高齢社会の広がりとともに、今後は在宅での介護をいかにサポートしていくか。それも大きな社会課題です。



最近では、在宅介護をされている方が手軽に当社商品を手入手できるよう、従来の通信販売に加え、量販店やドラッグストア、また病院の売店等、取り扱い店舗の拡大に努めています。

さらに、在宅介護に携わる方々を対象に、情報発信やコミュニケーションの場を提供する「ありがとう介護研究会」を定期的に開催しています。そのほか、介護に関するニュースレターを発行するなど啓発活動にも力を注いでいます。

「食」は、生活の基本であり、元気の源です。当社グループは、食品メーカーとして栄養とおいしさにこだわりながら、高齢社会に貢献していきます。

ステーキホルダーの声

手軽に使える商品がメニュー作りに役立っています。

当病院の栄養管理室では、患者さんに提供する食事について、栄養士たちが意見を出し合って随時新しいメニューを取り入れるように努めています。和洋中、さらにはエスニック風味など味わいはもちろん、献立の色合いなど見た目も工夫しています。

このようなメニュー作りで重宝しているのが日清オイリオグループのMCT関連商品です。食が細い患者さんの中には、日清オイリオの中鎖脂肪酸油入りプリンなら食べられるという方もいらっしゃいます。患者さんのメニューに活用するだけでなく、今春から病院の売店でも商品を扱うようになりました。今後も在宅で手軽に利用できるものなど、新しい商品の開発に期待しています。

JCHO 東京高輪病院 栄養管理室
室長
高村 晴美氏



従業員の声

現場の声を大切にして、商品やサービスに活かしています。

すでに10年以上、高齢者向け食品の営業に携わっていますが、最近、社会の認識が大きく変わりつつあることを実感しています。そんな毎日の活動で私が心掛けているのは、できる限り第一線に足を運び、お医者様や栄養士の皆様の声を直接聞くこと。最近、情報提供の一環として、高齢者介護食のレシピ集を作りましたが、これも栄養士の皆様のオリジナルアイデアをまとめたものです。

当社の商品についてよく耳にするのは「おいしい」という評価。私も「おいしさ」にはこだわって商品をお届けしていますので、そのような声を聞くと嬉しいですね。

健医食営業部 営業グループ
平尾 健志

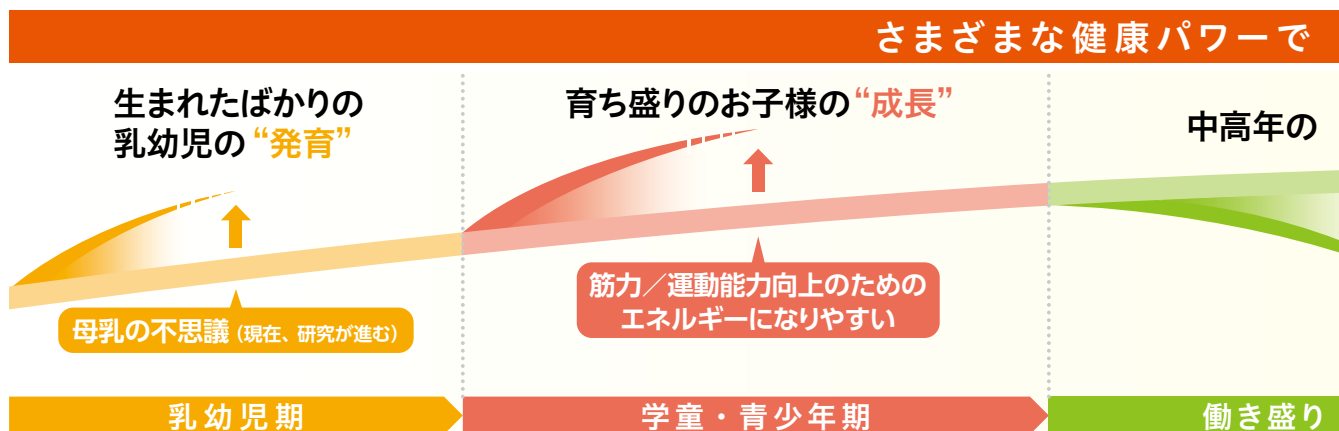


特集

2

赤ちゃんからお年寄りまで、 皆様の健康を支える中鎖脂肪酸

● ライフステージに応じた中鎖脂肪酸の活用



約4倍もエネルギーになりやすい中鎖脂肪酸

当社グループでは、人々のライフステージのさまざまなシーンで中鎖脂肪酸の利用を提案しています。ここに、中鎖脂肪酸の特徴を改めて簡単に紹介しましょう。

中鎖脂肪酸は、ココナッツやパームフルーツに含まれる天然成分です。母乳や牛乳などにも含まれており、長い食経験の中で私たちがずっと摂取してき

た成分なのです。

この「脂肪酸」とは、油の主成分。一般的な植物油に含まれる「長鎖脂肪酸」と比べると、中鎖脂肪酸は約半分の長さの脂肪酸です。こうした構造から、中鎖脂肪酸は、長鎖脂肪酸に比べて、約4倍も速く消化吸収されエネルギーになりやすいという特長があります。

赤ちゃんからお年寄りまで。中鎖脂肪酸の可能性

母乳に含まれていることでも知られる中鎖脂肪酸は、消化吸収されやすくエネルギーになりやすいので、生まれたばかりの乳幼児の発育に役立つと考えられ研究が進んでいます。現に1960年代から、未熟児のエネルギー補給に中鎖脂肪酸が利用されています。

また、同様の特長から、中鎖脂肪酸は、育ち盛りの子どもの“成長”をサポートする成分としても適しています。

そして働き盛りの年代になると、気になり始めるのが体につく脂肪。当社グループでは、独自のエステル交換技術で、中鎖脂肪酸を含み、体に脂肪がつきにくい特定保健用食品の健康オイルを開発・販売しています。

さらに最近、中鎖脂肪酸の新しい可能性に注目が集まっています。それは、脳の働きとの関係です。中鎖

脂肪酸がアルツハイマー病に与える影響に関する研究が進み、中鎖脂肪酸を摂取した結果、記憶力などの低下が抑えられるという報告もされています^{※4}。

また、食が細くなりがちな高齢者における深刻な問題としてクローズアップされているのが、エネルギーが不足する「低栄養」。少量で効率よくエネルギーを補給できる中鎖脂肪酸は、高齢者の食生活の強い味方として医療や介護の現場で幅広く利用されています。

※4 Henderson ST, et al., Nutr Metab(Lond), 2009 より改変



話題のココナッツオイルにも含まれるなど、最近さらに注目が高まる中鎖脂肪酸。日清オイリオグループはさらなる取り組みを進め、中鎖脂肪酸のグローバルリーディングカンパニーを目指します。

健やかな毎日を支える“中鎖脂肪酸”



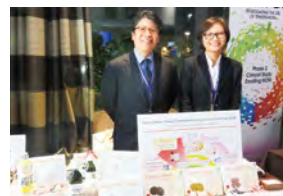
中鎖脂肪酸を世界の食卓に

当社グループでは、たくさんの可能性を秘める中鎖脂肪酸において幅広い事業を進めています。2014年3月に「中鎖脂肪酸事業化推進室」を設置し、新規事業の開拓やグローバルブランドの創造に取り組んでいます。

2014年9月には、中鎖脂肪酸をより広く知っていただくための公式ウェブサイト「中鎖脂肪酸サロン」を開設。2015年2月にココナッツオイルを発売、5月には中鎖脂肪酸を手軽に摂れる新感覚のソフトゼリーを発売しました。同年5月の認知症ケア学会をはじめ、学会発表などの活動にも力を注いでいます。

海外でも、2014年10月、英国で開催された中鎖脂肪酸を用いた食事療法のグローバル・シンポジウムに参加。ブース出展も行い注目を集めました。今後は海外企業とのコラボレーションも視野に入れながら、グローバルレベルでの事業展開を進めていきます。

このように、中鎖脂肪酸は、赤ちゃんからお年寄りまで家族が集う食卓で健やかな毎日をサポートします。当社グループは、食品メーカーとして培ってきた経験と技術を結集して、中鎖脂肪酸を世界の食卓にお届けしていきます。



従業員の声

中鎖脂肪酸への注目度は、海外ではさらに高いと実感しています。

2014年10月に英国で開催されたグローバル・シンポジウムに初めて出展しました。このシンポジウムは、難治性小児てんかんなど脳の栄養不足を改善するための食事療法に関するものです。欧米では難治性小児てんかんの治療法のひとつに、油分を多くした食事療法があるのですが、その治療食はどうしても油っぽくなってしまい、必ずしもおいしいとはいえないものが多いのが現状です。そこで当社グループでは、中鎖脂肪酸を使い、サクサクとした食感のクッキーなど試食品をご紹介します。すると、日を追うごとに次々と人が集まり、研究者や栄養士の方はもちろん、特に患者さんからは「おいしい!」、そのご

家族からは「家族みんなで楽しめるこんな食品を待っていたんだ」といった声が寄せられたのです。私たちがこれまで培ってきた商品開発力で、治療中でも「おいしい」食生活を送っていただける可能性を感じました。

中鎖脂肪酸のチカラを、日本はもちろん、世界の人たちにもできるだけ早くお届けしていきたいと思っています。

中鎖脂肪酸事業化推進室

中島 香



日清オイリオグループのCSR

経営理念の実現を通じてステークホルダーの皆様の期待と信頼にお応えすることが、私たちにとってのCSRです。

経営理念

1. 企業価値の追求と、その最大化を通じた人々・社会・経済の発展への貢献
2. 「おいしさ・健康・美」の追求をコアコンセプトとする創造性、発展性ある事業への飽くなき探求
3. 社会の一員としての責任ある行動の徹底

コアプロミス

日清オイリオグループは、健康的で幸福な「美しい生活」(Well-being)を提案・創造いたします。そのために私たちは、無限の可能性をもつ植物資源と、最高の技術によって、あなたにとって、あったらいいなと思う商品・サービスを市場に先駆けて創り続け、社会に貢献することを約束いたします。

CSRの取り組みの基本方針

意義・目的

- CSRとは、あらゆるステークホルダーとの関わりを重視し、「法的な責任を果たすこと」はもちろん、安全で安心できる商品・サービスの安定的な提供、環境問題への取り組み、社会貢献、情報開示など、「あらゆるステークホルダーからの期待に応えること」です。
- 日清オイリオグループにとって、経営理念の実現そのものが、CSRに対する取り組みに直結するものです。
- 日清オイリオグループは、CSRに対する主体的な取り組みによって、あらゆるステークホルダーからの信頼・共感の維持・向上を図り、企業の持続的発展、企業価値の向上を目指します。

日清オイリオグループのCSRイメージ

当社グループは、1907年の創立以来、植物がもつ3つのチカラ、「おいしくするチカラ」「健康にするチカラ」「美しくするチカラ」を最高の技術によって引き出し、世の中にお届けしてきました。

「おいしさ」「健康」「美」。これらの喜びを、健康的で幸福な「美しい生活」(Well-being)として、提案・創造していきます。そして、社会や環境の分野においても、“植物のチカラ®”を活用し、世の中にも貢献します。



ステークホルダーに対する取り組み

当社グループは、2005年にCSRに対する取り組みの基本方針を定めた際に、主たるステークホルダーをお客様、取引先、株主・投資家、従業員、社会、環境とし、ステークホルダーごとにCSRの方針を策定し、取り組んでいます。

● CSRの方針

お客様 P22

「おいしさ・健康・美」を追求した、安全・安心でお客様にとって価値ある商品・サービスを安定的にご提供し続けます。お客様の声を絶えずお聞きして、「植物のチカラ®」を、独創的な技術で商品・サービスに活かしていくとともに、お役に立つさまざまな関連情報を常に発信していきます。

取引先(販売先・調達先) P23

フェアネス(公平・公正)に基づいた相互信頼のパートナーとしての関係を築き、共同で商品や市場を開発し、ともに成長していきます。

株主・投資家 P24

健全な成長と安定した企業業績のもとで、株主様との双方向コミュニケーションの推進による良好な関係を築きながら、株主価値の向上、適切な利益還元に努めます。また、広く投資家の皆様に向けて、適切な情報開示を行います。

従業員 P25

時代に合った働きやすい環境を整え、持続的に従業員が自己の成長を感じられる働きがいのある、いきいきとした安全で衛生的な職場を実現します。

社会 P28

良き企業市民として地域社会に貢献するとともに、国際社会の一員としても良好な企業活動や積極的なコミュニケーションを図り、社会とともに発展していくよう努めます。

環境 P26

常に未来に向けた技術で、「植物のチカラ®」を引き出し、原料・資材の調達から、生産、納品、ご使用、廃棄にいたるまで、地球環境に配慮した商品・サービスの開発・ご提供を目指します。またこれらを通じて、低炭素社会、資源循環型社会、自然共生社会の構築を目指した取り組みの推進に努めます。

中期経営計画

2014年度からスタートした3カ年の中期経営計画の目標達成に向けて、全社一丸となって事業に取り組んでいます。

当社グループのあるべき姿、目指すべき方向

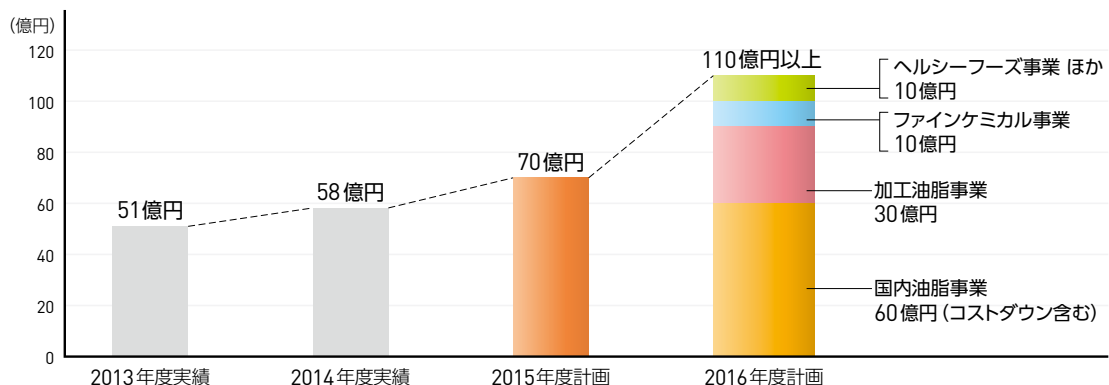
強力なブランド力と独創的でかつ優位性のある技術を武器に
油脂と油脂から派生する事業をグローバルに展開する企業グループ

基本方針

グループの基幹事業である油脂事業の収益改善を中心とする将来のゆるぎない収益基盤の構築

2014年度～2016年度 中期経営計画目標

2016年度において連結経常利益110億円以上を目指す



マネジメント

社会との信頼関係および企業価値を維持・向上させるため、コーポレート・ガバナンスの充実、コンプライアンス、リスクマネジメントに積極的に取り組んでいます。

コーポレート・ガバナンス

企業が社会との信頼関係を維持・向上させるために、コーポレート・ガバナンスはますます重要なものになっています。当社グループは、コーポレート・ガバナンスの充実を経営の重要事項と考えています。

当社は、取締役会、監査役会、内部監査室の機能を充実することにより、経営および業務執行の健全性、アカウンタビリティは確保できると判断しています。取締役会は、社外取締役2名を含む9名、監査役会は、監査役4名（うち社外監査役2名）で構成されています。

当社は、環境変化に即応した迅速な意思決定を実践するため、執行役員制度を導入しており、執行役員は取締

役会から業務執行権限を委譲され、経営計画や取締役会の方針に則り、職務領域を担当する取締役の監督のもとで業務執行に携わっています。

また、経営理念の実現を通じてステークホルダーから信頼を得ることを企業の社会的責任（CSR）と捉え、当社グループ全体におけるCSR推進のために、CSR委員会を設置しています。当社グループ全体のコンプライアンス、リスクマネジメント体制については、取締役会の諮問機関としてリスクマネジメント委員会、企業倫理委員会などの委員会を設置し、必要に応じて顧問弁護士などの連携を図り、専門的な見地から意見を答申しています。

コンプライアンス

当社グループは、コンプライアンスを単なる法令遵守とは考えず、ビジネス上の倫理、さらには社会倫理の遵守と捉えています。

コンプライアンスの浸透に向けた取り組みの拠り所となる「日清オイリオグループ行動規範」は、企業倫理綱領のみならず経営理念実現のための行動指針であり、CSR活動の行動指針とも位置づけています。

企業倫理、法令遵守に関する問題提起、疑問、相談は企業倫理ホットラインで受け付け、提供された情報は企業倫理委員会で審議し、再発防止を図っています。

企業倫理月間企画

2014年度の企業倫理講演会では、「パワーハラスメントのない職場づくり」をテーマに株式会社クオレ・シー・キューブの岡田康子氏にご講演いただきました。パワハラの実例や上司から部下への接し方などについてご説明いただき、管理職の気付きを喚起しました。



講師を務めた岡田康子氏

コンプライアンス・プログラムの実施

当社グループはコンプライアンス・プログラムの一環として、従業員教育を継続的に実施しています。従業員一人ひとりの法務リテラシーの向上とコンプライアンスの実践を目指し、法務部門のスタッフが講師となり、日常業務に密着したテーマで法務セミナーを開催しています。

● 2014年度に開催した法務セミナー

主なテーマ

- 株式会社あれこれ～会社法の基礎
- 商品の不具合とメーカーの責任（PL法を中心に）
- 新時代を迎える個人情報保護
- 下請法を学ぶ
- 契約書のいろは
- 英文契約書を読む
- 著作権の基礎
- 与信管理・債権回収の基礎



法務セミナー

リスクマネジメント

当社グループのリスクマネジメントの目的は、主体的な取り組みにより企業として安定した収益をあげるだけでなく、企業の社会的責任を果たすとともに、さらなる企業価値の向上と持続的な発展を目指すことです。

あらゆるリスクに対して最適な対応策を講じるとともに、リスク発生時において被害を最小限にとどめるべく、迅速かつ最善の対応を図ることを基本方針としています。

BCP 発動を想定した訓練の実施

当社は2009年に大規模地震に対するBCP（事業継続計画）と新型インフルエンザに対するBCPを策定し、2012年には東日本大震災をふまえ、より現実的な大規模地震BCPを再構築しました。

大規模地震BCPに関して、各生産拠点にてBCP発動を想定した訓練を実施しています。2013年度は横浜磯子事業場、2014年度は名古屋工場、堺事業場、水島工場の3拠点にて行いました。策定したBCPの実効性の評価や、従業員のBCPに対する理解や緊急事態発生時における各自の役割の明確化を目的とした本訓練では、具体的な災害発生を想定し、初動対応から被災状況の報告、BCP発動、事業継続戦略に則った復旧対応までの流れや従業員の安否確認等について、災害発生から2日間の動きを確認しました。緊急事態発生時にBCPが有効に活用できるよう、今後も定期的な訓練を続けていきます。



名古屋工場で実施した訓練の様子

フードディフェンスの取り組み

商品の安全・安心を守るための取り組みのひとつとして、継続的にフードディフェンスの強化を行っています。

2014年2月に生産4拠点が連携したチームを立ち上げ、一般的な異物混入だけでなく、“意図的な異物混入”に対して、その発生の抑制および万が一問題が発生した場合、速やかに影響範囲の特定、製造状況の確認ができる体制の構築を進めました。具体的には、工場内の記録カメラ・入室管理システムの拡充、タンク等の施錠や充填エリアへの私物持ち込み防止管理の徹底およびフードディフェンスガイドラインの見直し等に取り組んでいます。

また、関係会社も含めて健康被害に関わる情報の伝達・対応ルールを徹底しています。お客様相談窓口等に寄せられるお申し出に対しては、その内容に応じ適切かつ迅速な対応が取れるような体制を整備しています。

食に関わるメーカーとして、グループ一丸となって今後も安全・安心な商品をお届けしていきます。



導入した指紋認証入室管理システム

国連グローバル・コンパクトの社内浸透

当社は、2011年7月、国連が提唱する「グローバル・コンパクト」に参加しました。国連グローバル・コンパクトは、「人権」「労働」「環境」「腐敗防止」の4分野について組織が遵守すべき普遍的原則を示したものです。

2014年度はガイドブックの配布や、新入社員研修等を通じて従業員に対して国連グローバル・コンパクトの理念の浸透を図りました。



国際的な企業グループとして、国連グローバル・コンパクトの理念を取り入れCSRの取り組みをさらに推進し、ステークホルダーからの信頼に応えていきます。

● 国連グローバル・コンパクト 10原則

人権	原則 1：人権擁護の支持と尊重
	原則 2：人権侵害への非加担
労働	原則 3：組合結成と団体交渉権の実効化
	原則 4：強制労働の排除
	原則 5：児童労働の実効的な排除
	原則 6：雇用と職業の差別撤廃
環境	原則 7：環境問題の予防的アプローチ
	原則 8：環境に対する責任のイニシアティブ
	原則 9：環境にやさしい技術の開発と普及
腐敗防止	原則 10：強要・賄賂等の腐敗防止の取り組み

CSR活動の実績

お客様

		単位	2012年度	2013年度	2014年度	備考
お客様相談窓口へのお申し出件数	(合計)	件	20,431	18,932	18,804	
	お問い合わせ		19,198	17,785	17,786	
	ご指摘		686	638	552	
	ご意見・ご要望		547	509	466	
お問い合わせ内容内訳	(合計)	件	19,198	17,785	17,786	
	商品の特徴・使用方法など		9,593	8,421	8,347	
	販売店や入手方法		3,143	3,088	3,288	
	賞味期限に関する質問		2,973	2,847	2,844	
	商品の品質に関する質問		1,048	1,282	1,334	
	資料やサンプルなどの依頼		860	794	677	
	その他		1,581	1,353	1,296	

株主・投資家

		単位	2012年度	2013年度	2014年度	備考
株主数		名	25,692	32,689	31,617	
配当実績	(年間計)	円	10.0	10.0	10.0	
	中間配当		5.0	5.0	5.0	
	期末配当		5.0	5.0	5.0	
個人投資家向け会社説明会開催回数		回	15	10	12	
個人投資家向け会社説明会参加人数		名	883	681	508	

従業員

		単位	2012年度	2013年度	2014年度	備考
永年勤続表彰制度利用者数		名	124	98	86	
育児休職制度利用者数		名	24	22	22	
介護休職制度利用者数		名	1	1	1	
短時間勤務制度利用者数		名	19	26	26	
ボランティア休暇制度利用者数		名	0	1	0	
障がい者雇用率		%	2.36	2.28	2.60	
定年退職者再雇用制度利用者数		名	5	9	13	当該年度に定年を迎えた者のみをカウント

私たちは2005年にCSRに対する基本方針を定めた際に、主たるステークホルダーをお客様、取引先、株主・投資家、従業員、社会、環境とし、ステークホルダーごとにCSRの方針を策定し、取り組んでいます。2012年度～2014年度の取り組み実績について報告します。

社会

		単位	2012年度	2013年度	2014年度	備考
横浜磯子事業場 工場見学者数	(合計)	名	12,785	12,659	9,923	2014年度は工場内の工事の影響で見学人数を制限したため減少
	一般消費者	名	7,466	6,950	5,299	
	学生	名	3,692	4,080	2,940	
	PTA	名	898	815	558	
	取引先	名	556	607	753	
	海外	名	173	207	373	
WFP ウォーク・ザ・ワールド※1 参加人数		名	163	121	123	
チャリティランチ※2 喫食数		食	151	318	321	2013年度より開催場所を増やしたため増加
地域での清掃活動参加人数		名	444	441	449	グループ会社含む
環境保護活動参加人数		名	128	85	99	

※1 国連 WFP 協会主催、子どもの飢餓撲滅のためのチャリティウォークイベント

※2 社員食堂でのチャリティ企画

環境

		単位	2012年度	2013年度	2014年度	備考
使用エネルギー量と 原単位の推移	使用エネルギー量 (原油換算値)	kl	77,211	78,827	82,782	2014年度は生産量(搾油処理量)が増えたため増加
	使用エネルギー原単位	kl/t	0.127	0.128	0.133	エネルギー原単位= 使用エネルギー[原油換算](kl) / 油処理量(t)
CO ₂ 排出量と 原単位の推移※3	CO ₂ 排出量	t-CO ₂	163,187	166,764	176,469	2014年度は生産量(搾油処理量)が増えたため増加
	CO ₂ 排出量原単位	t-CO ₂ /t	0.269	0.271	0.283	CO ₂ 排出量原単位= CO ₂ 排出量(t-CO ₂) / 油処理量(t)
油脂の輸配送に係るエネルギー使用削減率		%	▲ 1.2%	▲ 0.2%	▲ 2.9%	2010年度比、対象：パッケージ品+バルク油 (油粕や生産のための拠点間輸送は除く)
廃棄物再資源化率		%	99.87	99.89	99.94	

※3 CO₂換算係数変更のため、CSR報告書2014で報告した数値を修正

WEB ▶▶ 本ページに記載しているのは実績の一部です。そのほかの実績はホームページの「CSRデータ集」をご覧ください。
<http://www.nisshin-oillio.com/company/csr/report.html>





ステーキホルダーに対する取り組み①

お客様のために

「おいしさ・健康・美」を追求した、安全・安心でお客様にとって価値ある商品・サービスを安定的にご提供し続けます。お客様の声を絶えずお聞きして、“植物のチカラ®”を、独創的な技術で商品・サービスに活かしていくとともに、お役に立つさまざまな関連情報を常に発信していきます。

商品改善事例①～はがしやすいラベルへ～

「日清キャノーラ油1000gポリ」について、「ポリボトルとラベルを分別して廃棄しやすいように、ラベルを簡単にはがせるようにしてほしい」とのご要望をいただきました。

そこで、ラベルの糊づけ方法を工夫し、紙ラベルがきれいに、かつ簡単にはがせるよう改善しました。これにより、容器を廃棄する際、「プラ」と「紙」の分別をより行いやすくなりました。



はがしやすくなったラベル

商品改善事例②～商品名「マヨドレ」の印字を追加～

卵を使っていないマヨネーズタイプの調味料「日清マヨドレ315g」は、卵の摂取を気にするお子様をもつご家族や保育施設等からご支持いただいている商品です。改善前は、商品名をパッケージの外袋だけに記載していたため、「外袋を外してもマヨドレとわかるようにしてほしい」という声を多くいただいていた。このようなご要望を受け、2014年5月製造分より、キャップの天面に「マヨドレ」の文字も印字するよう変更しました。



変更したキャップの印字

「これこれ!小さいズ」シリーズの商品化

単身世帯など食用油使用量の少ない世帯では、食用油を使いきるまでの期間が約4ヵ月と、食用油をおいしく使い切るための期間の目安である開封後1～2ヵ月を約2ヵ月も超過しています(当社調べ)。また、使用量の少ないお客様からも「購入した食用油を使いきれない」という声を多くいただいていた。こうしたお客様の声にお応えし、2014年9月より、容量の少ない新シリーズ「これこれ!小さいズ」を展開し、50gのごま油とオリーブオイル、200gの健康オイル「ヘルシーリセット」「ヘルシーコレステ」などを発売しています。



これこれ!小さいズ

ウェブサイト「中鎖脂肪酸サロン」を開設

2014年9月、天然成分“中鎖脂肪酸”について紹介するサイト「中鎖脂肪酸サロン」をオープンしました。本サイトは脳の栄養不足の改善など、中鎖脂肪酸の新たな可能性を中心に情報提供しています。具体的にはアルツハイマー型認知症と中鎖脂肪酸の関係や、記憶力の低下を抑えることのできた研究事例等、最新の情報を掲載。今後もさまざまな情報を追加・更新していきます。



中鎖脂肪酸サロン
<http://www.nisshin-mct.com>

ステークホルダーに対する取り組み ②



取引先とともに

フェアネス(公平・公正)に基づいた相互信頼のパートナーとしての関係を築き、共同で商品や市場を開発し、ともに成長していきます。

プレゼンテーション会の開催

当社は定期的にプレゼンテーション会を開催し、取引先の皆様とのコミュニケーションの場を設けています。2015年3月に東京・大阪で開催した春のプレゼンテーション会には、500名を超える取引先の皆様にご参加いただきました。

プレゼンテーション会では、世の中の生活シーンにおける消費トレンドに基づき、食シーンや売り場などのご提案を行いました。当社ではさまざまな調査やデータをもとに各年の消費マインドを分析し、2012年よりその結果をキーワードにまとめています。2015年度は「お手軽リッチ(おてがりっち)」「健康スタイリッシュ」「ぬくもりハートフル」「いいね!体験」の4つのキーワードで消費トレンドを表現し、これをもとに各業態に向けた商品・食シーン・メニューをご提案しました。

今後も消費トレンドを捉えた「モノ(商品や技術)」「コト(メニューや食シーン)」「売場づくり」による需要喚起のご提案を行い、取引先の皆様との強固なパートナーシップを築いていきます。



プレゼンテーション会の様子



朝食シーンのご提案

油脂サプライヤーとしてRSPOサプライチェーン認証を取得

当社はパーム油産業の健全な発展に貢献していくため、2012年にRSPO(持続可能なパーム油のための円卓会議)に加盟しました。また、2014年3月には「RSPOサプライチェーン認証※」を横浜磯子事業場・堺事業場において取得しています。今後もパーム油生産に関する環境・社会的課題を深く理解・認識し、RSPOの理念の普及に努めていきます。

※ RSPOサプライチェーン認証とは、製造・加工・流通過程における認証制度。認証パーム油を使用して作られた製品を取り扱う各工程でサプライチェーン認証の要求事項を満たしているかを認証する制度です。

世界カカオ財団への参画

大東カカオ株式会社は2013年に世界カカオ財団(WCF)※に加入しました。2014年度は、5月にインドネシアで開催されたパートナーシップミーティングに参加し、各国の加盟企業との情報交換を行いました。今後もWCF活動への支援を通じて、世界のカカオ産業が抱える課題の解決に貢献していきます。



World Cocoa Foundation

※ 世界カカオ財団(WCF)とは、持続可能なカカオ経済の促進に貢献する100社以上の会員企業で構成される世界的な財団で、カカオ主要産地にて農民への教育活動や品種改良支援等を行っています。



株主・投資家の皆様とともに

健全な成長と安定した企業業績のもとで、株主様との双方向コミュニケーションの推進による良好な関係を築きながら、株主価値の向上、適切な利益還元に努めます。また、広く投資家の皆様に向けて、適切な情報開示を行います。

株主様工場見学会

2014年9月、横浜磯子事業場にて第8回株主様工場見学会を開催し、抽選により株主様と同伴者の方あわせて約100名にご参加いただきました。

参加者の皆様には事業場内の圧抽工場や充填ラインなどを見学いただき、またミニプラントを使用し、実際に原油が透明な食用油に精製される工程についても紹介しました。

見学後の懇親会では、当社グループの商品を使用した料理やデザートを試食いただくとともに、今村社長をはじめとする当社役員と意見交換の場を設けました。当社グループについて理解を深めていただくとともに、直接株主の皆様からの意見を伺う貴重な機会となりました。



懇親会の様子



搾油ミニプラントの見学

投資家の皆様とのコミュニケーション

個人投資家の皆様向けに、全国の証券会社支店にて会社説明会を開催しています。2014年度は全国12ヵ所、約500名の個人投資家の皆様に向けて、当社の事業内容や経営戦略についてご説明いたしました。

また、機関投資家・アナリストの皆様を対象に、年2回開催する決算説明会のほか、個別のIRミーティングを積極的に行っています。



会社説明会

IR情報の開示

正確で信頼性の高いIR情報をホームページ上でタイムリーに提供しています。IRサイトでは最新の決算情報や年間のIRカレンダーのほか、事業等のリスクやコーポレート・ガバナンスについて掲載しています。

また、海外の投資家向けの情報発信として、当社のIR情報を簡潔にまとめたアニュアルレビュー（英文）をホームページで公開しています。今後もわかりやすい情報開示に努めていきます。



アニュアルレビュー（英文）
<http://www.nisshin-oillio.com/english/financial/annualreview.shtml>

株主優待制度

毎年3月31日現在の株主名簿に記載された、1,000株以上を所有されている株主様に対して、年1回3,000円相当の当社製品をお贈りしています。



株主優待品の例

ステークホルダーに対する取り組み ④



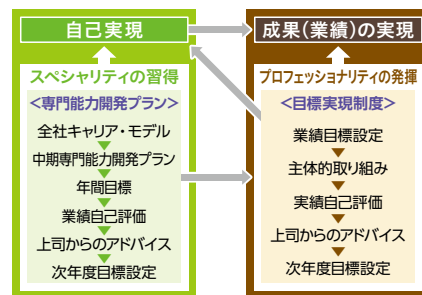
従業員のために

時代に合った働きやすい環境を整え、持続的に従業員が自己の成長を感じられる働きがいのある、いきいきとした安全で衛生的な職場を実現します。

「能力開発・成果主義」を基本理念としたプロフェッショナル人事制度

当社の人事制度の基本理念は「能力開発・成果主義」であり、従業員一人ひとりが、高度な専門性に裏打ちされた行動力を持って成果を出すプロフェッショナルであってほしいと考えています。

制度の中核を成すシステムとして「目標実現制度」と「専門能力開発プラン」があり、この2つのシステムを密接にリンクさせ、個人の成長と企業の業績向上を同時に達成し、そして社会の発展に貢献することを目指しています。



充実した能力開発体系

専門能力開発プランを中心に、さまざまなプログラムを連動させ、従業員の能力開発を推進しています。教育・研修については、「教育はすべての業務に優先する」という考え方のもと、階層別教育、部門別教育、自己開発教育など体系的な制度を整え、従業員教育の充実に力を入れています。

2014年度は異文化の体感やグループ会社視察を目的に「マレーシア・シンガポール視察研修」を行うなど、教育体系に基づいた各種プログラムを実施しました。



マレーシア・シンガポール視察研修

人権を尊重した雇用の取り組み

当社グループは、日清オイリオグループ行動規範において、人権に関して社会の一員としての責任ある行動をとることを表明しています。

また、国連グローバル・コンパクト※の署名企業として、人権の保護、不当な労働の排除などの10原則の遵守に取り組んでいます。

※ 国連グローバル・コンパクトについては、P19を参照ください。



行動規範

ワークライフバランスの推進

少子化が進行する中で、当社は「次代の社会を担う子どもが健やかに生まれ、成長する環境づくり(次世代育成支援)」を重要なテーマと位置づけ、積極的な取り組みを進めています。2011年度～2014年度の4年間における次世代育成行動計画の実行によって、厚生労働省が子育てサポート企業として認定する「次世代認定マーク(通称:くるみん)」を取得しました。2015年度以降についても新たな次世代育成行動計画に則った活動を積極的に展開していきます。



短時間勤務者の声

5歳と3歳の双子の三児の育児のため短時間勤務制度を利用し、長時間保育では体調を崩しがちな子どもたちの健康に気をつかいながら、家庭と仕事の両立を図っています。一方で、限られた時間内の勤務であることから、周囲の協力や支援を受けることも少なくありません。今後も周りの人々への感謝の気持ちを忘れずに仕事と家庭のどちらも大切に、全力で頑張っていきたいと思っています。



人事・総務部 人事企画グループ
渡辺 洋子



環境のために

常に未来に向けた技術で、“植物のチカラ[®]”を引き出し、原料・資材の調達から、生産、納品、ご使用、廃棄にいたるまで、地球環境に配慮した商品・サービスの開発・ご提供を目指します。またこれらを通じて、低炭素社会、資源循環型社会、自然共生社会の構築を目指した取り組みの推進に努めます。

低炭素社会実現に向けた取り組み

当社グループでは事業活動によるエネルギー消費量を考慮し、地球温暖化ガス排出削減による低炭素社会実現への取り組みを積極的に推進しています。省エネや環境に配慮した設備の導入例として、2014年度、水島工場では原料の前処理を行うロータリーキルン（回転式蒸気加熱機）について蒸気を回収、循環させて再利用する機構を改善しました。これにより熱交換効率を高め、年間約10%のエネルギー使用量を削減しました。

また、物流部門においては、モーダルシフトの推進や配送の効率化に継続的に取り組んでいます。2014年度は、当社を含む食品メーカー6社にて、“食品企業物流プラットフォーム”の構築に合意しました。物流品質の向上を目指すとともに、CO₂削減等、環境保全における社会的責任を果たしていきます。



水島工場のロータリーキルン

環境保全のための“植物のチカラ[®]”隊の活動

“植物のチカラ[®]”隊は社内の有志で構成されたグループで、定期的に環境保護活動を行っています。横浜磯子事業場では、森林保護活動として神奈川県横浜市の森林で下草刈りや外来種の伐採を実施したり、同市内の海の公園にて海の浄化活動を継続して展開しています。また名古屋工場では、愛知県瀬戸市内の県有林の間伐などを実施し、環境保全に貢献しています。



森の保護活動（横浜磯子事業場）

岡山エコ事業所認定（水島工場）

水島工場では2009年12月、岡山県が環境にやさしい企業づくりを推進するために創設した「岡山エコ事業所認定制度^{*}」による認定を受け、循環型社会の形成に向けた取り組みを推進して



きました。環境マネジメントシステムの活用や、内部監査による点検など、環境にやさしい企業づくり推進のための継続的な事業活動が認められ、2015年3月に継続認定を受けました。

同工場では、廃棄物の削減・有価物化・分別強化、ゼロエミッションの継続をはじめとするリサイクル推進に積極的に取り組んでいます。廃棄物排出に関しては、2010年度より再資源化率100%を維持しています。

従業員の声

エコ事業所の継続認定を受けるにあたり、マニフェストをはじめとする法令遵守を徹底したほか、分別の「良い例」「悪い例」を見てもらうなど従業員一人ひとりにエコ事業所認定に必要な要件を理解してもらうことに力を入れました。その結果、廃棄物分別状況も改善されてきています。

今後も廃棄物の抑制・リサイクル推進に取り組み、環境にやさしい活動を続けていきたいと思っています。

水島工場 環境保安・保全グループ
小川 晃



^{*} 岡山エコ事業所認定制度とは、事業者が自らの環境保全に関する取り組み方針・内容・実績、将来の目標などを体系的に取りまとめ、これを定期的に公表するなど、取り組みが先進的、かつ優秀であると認められる事業所を岡山県が認定する制度です。

環境目標および評価

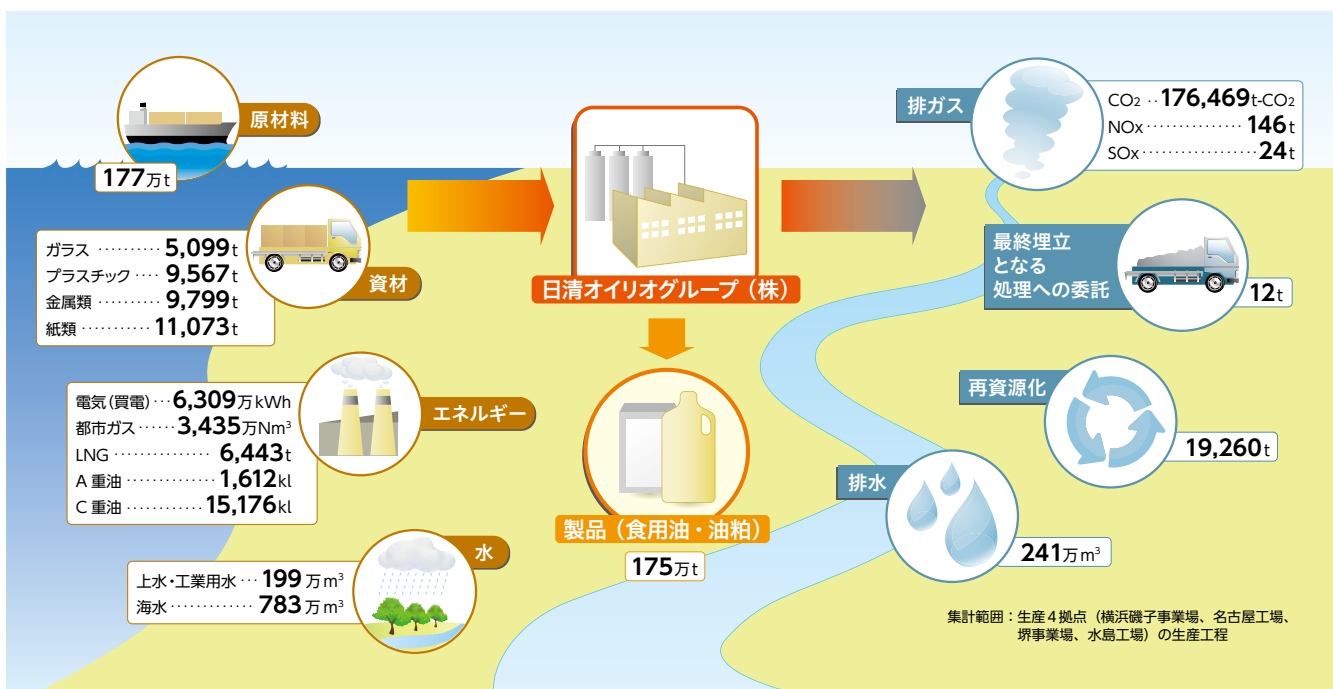
2020年度を目標年度とした中期環境目標の達成に向けた環境活動を推進しています。

2014年度の実績は以下の通りです。なお目標については情勢変化により、見直しを実施する場合があります。

評価：○順調に進捗、△未達成・改善が必要

テーマ	中期環境目標	2014年度の実績	評価
低炭素社会	2020年度に以下の目標を達成する(基準年度:1990年) ・生産活動における使用エネルギー量を20%削減、使用エネルギー原単位を15%削減	・使用エネルギー量:9.0%削減 ・使用エネルギー原単位:8.7%削減	△
	2020年度に以下の目標を達成する(基準年度:1990年) ・生産活動におけるCO ₂ 排出量を25%削減、CO ₂ 排出量原単位を20%削減	・CO ₂ 排出量:12.8%削減 ・CO ₂ 排出量原単位:12.5%削減	△
	・油脂の輸配送に係るエネルギー使用の原単位を2020年度に、2010年度比10%削減 対象:パッケージ品+バルク油(油粕や生産のための拠点間輸送は除く)	・エネルギー使用原単位:2.9%減少	○
循環型社会	・生産工程でのゼロエミッションの継続	・生産工程での再資源化率:99.94%	○
	・生産活動における用水(上水、工業用水)使用量原単位を2020年度に、2012年度比8%削減	・用水使用量原単位:5.4%削減	○
オフィス関連	・電気使用量原単位を2020年度に、2012年度比8%削減 対象:事務ブロック(本社+8支店)	・電気使用量原単位:13.2%削減	○
	・紙/コピー用紙の使用量削減 対象:事務ブロック+研究ブロック	・コピー用紙使用量: 8.3%削減(前年度比)	○
	・紙ゴミの廃棄量削減 対象:事務ブロック(支店除く)+研究ブロック	・紙ゴミ廃棄量:8.1%増(前年度比)	△
開発関連	・環境負荷の少ない容器・包装の開発	・キャップ(瓶製品)の軽量化を実施 ・分別しやすいラベルを開発	○
	・化石資源の利用低減、未利用資源の有効利用など	・生産プロセスの改善により 環境負荷の低減に貢献	○

資源・エネルギーの流れ(2014年度)





社会のために

良き企業市民として地域社会に貢献するとともに、国際社会の一員としても良好な企業活動や積極的なコミュニケーションを図り、社会とともに発展していくよう努めます。

「横浜磯子春まつり」の開催

横浜磯子事業場では、毎年4月、「横浜磯子春まつり」と題した地域密着型のイベントを2日間にわたって開催しています。近隣住民の皆様とのコミュニケーションを目的としてスタートし、2014年度で32回目となります。敷地の一部を開放し、当社グループ商品のショッピングゾーンのほか、オリーブオイル講座、ヒーローショー、ウルトラクイズ大会などさまざまなイベントを催しています。2014年度はのべ14,400名のお客様にご来場いただきました。



横浜磯子春まつり

チャリティウォーク「WFP ウォーク・ザ・ワールド」への参加と協賛

当社グループは、子どもの飢餓撲滅のために世界約70カ国で開催されるチャリティウォーク「WFP ウォーク・ザ・ワールド」に2007年より参加・協賛を続けています。日本では毎年横浜市で開催されていますが、2012年度から当社独自企画として、大阪地区でも開催しています。本イベントの参加費は、諸経費を除いて国連WFP協会の「学校給食プログラム」に役立てられています。2014年5月、横浜で約80名、大阪で約40名の当社グループおよび関係会社の従業員とその家族が参加し世界の飢餓撲滅のためにウォーキングを行いました。



大阪で実施したチャリティウォーク

「全日本少年サッカー大会」への協賛

未来のトップアスリートを目指す子どもたちを食事・栄養の面からサポートするため、2006年より全日本少年サッカー大会(U12)に協賛しています。決勝大会では、選手、指導者も利用する食堂施設へのメニュー提案、商品提供をはじめ、強い身体と心を作るための食生活のポイントを紹介した小冊子『親子で楽しむ!食生活サポートBook』の配布や、管理栄養士による「食事・栄養セミナー」を開催。スポーツと食事・栄養の大事な関係を伝えています。



全日本少年サッカー大会

食育への取り組み

食育活動の一環として、小学生の親子を対象とした食育イベントを開催しています。農家での野菜収穫体験や野菜の目利き、また収穫した野菜を使った料理教室を通じて、親子で食の大切さについて考える機会を提供しています。

また、もぎ豆腐店株式会社では、定期的に離乳食教室を開催。栄養価も高く離乳食初期から使える豆腐を使ったレシピを紹介し、子どもたちの正しい味覚の育成や、赤ちゃんの食事に関する悩み解消にも努めています。



離乳食教室

第三者意見

日清オイリオグループは今年度から「コーポレートレポート」として事業全般、財務データ、CSR活動報告について1冊の記載にまとめたものを発行されています。レポートの読み手が日清オイリオという会社について総合的に理解し、一層の親近感を持てるようにという配慮が背景にあると聞いています。これは創業108年を超えても今なお進化し続けることで、すべてのステークホルダーの期待に応えようという姿勢の表れです。

二つの特集では、本業を通じて社会課題を解決していくとする努力について書かれています。一つは、日本が直面する高齢社会に対して、日清オイリオの先端技術により引き出した植物資源がもつチカラを通じて解決していく事業が取り上げられています。もう一つは、世界の注目を集める中鎖脂肪酸が持つ健康を支える可能性の高さと、その事業展開について述べられています。高齢化は日本だけではなく、東アジア諸国や欧米先進国にとっても社会課題となっていますし、健康問題となれば世界中が関心を寄せる課題です。そういうグローバル規模の課題について、「食」「栄養」「おいしさ」という本業を追及することを以てして、世界課題を解決しようという意気込みを感じます。

トップメッセージで述べられているように日清オイリオグループがグローバル企業として成長し続けていくために、以下の二つの推奨点を提案いたします。

一つ目は、植物原料の調達に関する点です。食に関するグローバル企業のCSRトレンドは「責任ある原料調達(responsible sourcing)」にあります。油脂原料のほと

んどは海外からの輸入農産物で占められておられます。調達元には先進国と途上国とがありますが、特に途上国から調達している農産物に関しては、環境や人権などに配慮されたものを調達することを世界中の消費者が求めています。今後、さらに海外の製品市場をもっと拡大していくのであれば、世界の消費者が関心を持っている「責任ある原料調達」に一層取り組まれることを推奨いたします。

二つ目は、海外拠点におけるCSR実績についてです。グローバル企業になれば、海外においてもステークホルダーが増えます。海外のステークホルダーは、本社がある日本で何がされているかに加えて、自分たちの国で何がされているかの方に、より高い関心をもっています。記載できる活動やデータに限られるとしても、ぜひ海外での取り組みや成果に関しては盛り込んでいかれることを推奨いたします。バックナンバーに中国の大連日清製油有限公司(現・中糧日清(大連)有限公司)が特集で取り上げられていましたが、海外での実績についてもぜひ継続的に報告されるといいと思います。

CSRアジア 日本代表

赤羽 真紀子

通算10年以上、さまざまな業種の多国籍企業のCSR担当を経験し、スターバックスコーヒージャパン、セールスフォースドットコム、日興アセットマネジメントで関連部署の立ち上げを手がけた。早稲田大学で政治学と生物学を修め、カリフォルニア大学リバーサイド校、タフツ大学、慶應義塾の各大学院で学ぶ。講演、第三者意見の執筆多数。2010年より現職。



第三者意見を受けて

当社グループの活動に対して、大変貴重なご意見をいただきありがとうございます。当社の情報開示の姿勢や社会課題の解決に向けた取り組みについて評価いただきましたことは、ステークホルダーとのコミュニケーションのより一層の充実を目指していくうえで、非常に励みになりました。

ご提案いただきました推奨点につきましては、真摯に受け止めております。「責任ある原料調達」に関しては、例えばRSPOや世界力カオ財団に加盟するなど少しずつ取り組みを進めております。今後も国や業界団体、商社などとも連携し、社会の要請

を注視してまいります。また、2011年に署名した国連グローバル・コンパクトの10原則の実践も意識し、事業活動を展開してまいります。

海外拠点におけるCSR活動の実績については、さらなる情報開示の充実を検討してまいります。

今後も、グローバル企業として成長し続けることで、社会に貢献していく所存でございます。

日清オイリオグループ株式会社
コーポレートコミュニケーション部

会社概要

日清オイリオグループ株式会社

会社概要

商号	日清オイリオグループ株式会社
本社	〒104-8285 東京都中央区新川一丁目23番1号
電話	(03) 3206-5005
資本金	16,332百万円 (2015年3月31日現在)
売上高	329,267百万円 (2015年3月期・連結)
従業員数	2,665名 (2015年3月31日現在・連結)

取締役および監査役 (2015年6月25日現在)

代表取締役社長	今村 隆郎	
代表取締役	瀬戸 明	石神 高
取締役	藤井 隆	尾上 秀俊
	吉田 伸章	久野 貴久
取締役(社外)	鳴沢 隆	上原 敏夫
監査役(常勤)	栢之間 昌治	太田良 猛
監査役(社外)	新谷 謙一	寺澤 進

国内事業所一覧

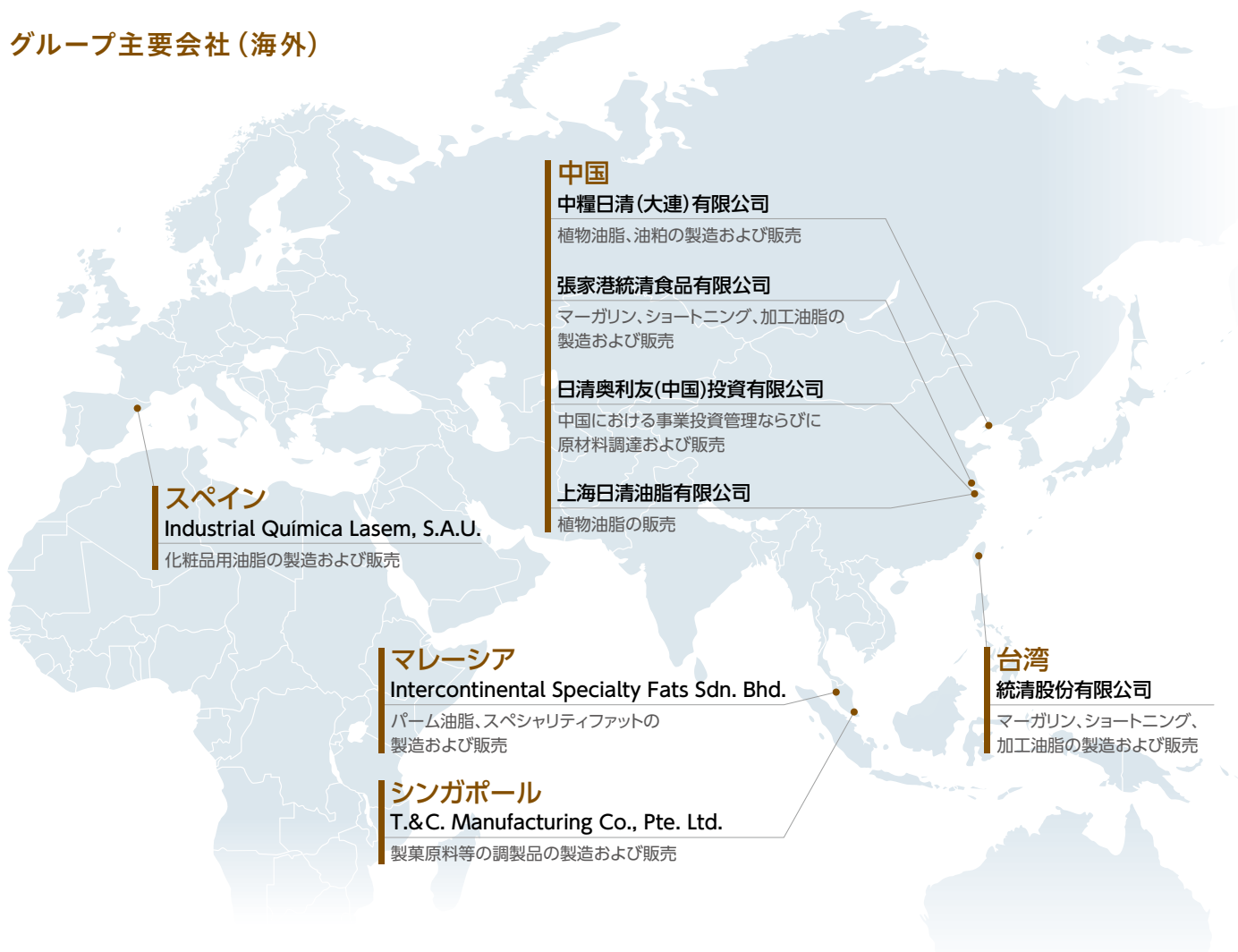
大阪事業場	〒531-0072	大阪市北区豊崎三丁目19番3号 ピアスタワー 8F	(06) 6376-5417
横須賀事業場 (中央研究所)	〒239-0832	横須賀市神明町1番地	(046) 837-2400
横浜磯子事業場 (横浜磯子工場)	〒235-8558	横浜市磯子区新森町1番地	(045) 757-5030
名古屋工場	〒455-0028	名古屋市港区潮見町37番地15	(052) 611-4111
堺事業場	〒592-8331	堺市西区築港新町3丁37番地	(072) 243-2940
水島工場	〒712-8071	倉敷市水島海岸通三丁目2番地	(086) 448-3232
札幌支店	〒060-0063	札幌市中央区南三条西十丁目1001番地5 福山南三条ビル1F	(011) 261-0326
仙台支店	〒980-0011	仙台市青葉区上杉一丁目17番7号 仙台上杉ビル2F	(022) 266-1511
関東信越支店	〒330-0802	さいたま市大宮区宮町二丁目35番地 大宮MTビル5F	(048) 650-5310
東京支店	〒104-8285	東京都中央区新川一丁目23番1号	(03) 5542-7807
名古屋支店	〒460-0004	名古屋市中区新栄町二丁目9番地 スカイオアシス栄10F	(052) 957-8881
大阪支店	〒531-0072	大阪市北区豊崎三丁目19番3号 ピアスタワー 8F	(06) 6376-5351
広島支店	〒730-0015	広島市中区橋本町10番6号 広島NSビル8F	(082) 227-0311
福岡支店	〒810-0001	福岡市中央区天神三丁目4番5号 ピエトロビル7F	(092) 751-3050
盛岡営業所	〒020-0034	盛岡市盛岡駅前通15番19号 盛岡フコク生命ビル8F	(019) 624-0611
郡山営業所	〒963-8004	郡山市中町1番22号 郡山大同生命ビル8F	(024) 923-4467
新潟営業所	〒950-0916	新潟市中央区米山三丁目2番11号 新潟米山MKD.5ビル3F	(025) 246-5981
長野営業所	〒380-0921	長野市栗田1010番地1 大成第一ビル3F	(026) 226-3813
埼玉営業所	〒330-0802	さいたま市大宮区宮町二丁目35番地 大宮MTビル5F	(048) 641-6441
西首都圏営業所	〒190-0022	立川市錦町一丁目8番7号 立川錦町ビル4F	(042) 526-1793
横浜営業所	〒235-8558	横浜市磯子区新森町1番地	(045) 759-3121
静岡営業所	〒420-0851	静岡市葵区黒金町11番7号 三井生命静岡駅前ビル3F	(054) 254-7348
北陸営業所	〒920-0856	金沢市昭和町16番1号 ヴィサージュ 8F	(076) 263-8680
四国営業所	〒760-0055	高松市観光通二丁目2番15号 第2ダイヤビル3F	(087) 862-5525
岡山営業所	〒700-0023	岡山市北区駅前町二丁目5番24号 JR岡山駅前2NKビル10F	(086) 222-8441
鹿児島営業所	〒890-0064	鹿児島市鴨池新町6番地6 鴨池南国ビル11F	(099) 258-6111
横浜神奈川事業所	〒221-0036	横浜市神奈川区千若町一丁目3番地	(045) 461-0181

日清オイリオグループは国内4カ所に生産拠点をもち、全国各地の支店・営業所を通じて商品をお届けしています。海外では、中国・台湾、マレーシア、シンガポール、欧州で事業を展開しています。需要の高まる中国では、付加価値の高い食用油の販売を進めています。また、欧州向けにチョコレート用油脂や化粧品原料を販売するなど、油脂事業だけでなく各事業分野において海外事業を積極的に展開しています。

グループ主要会社（国内）

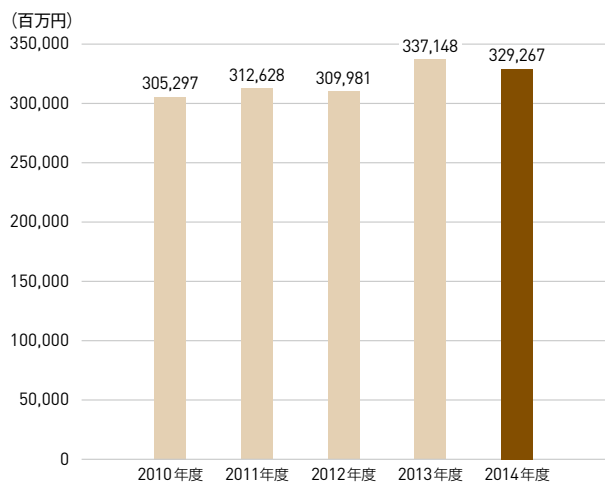
攝津製油株式会社 油脂・化成品の製造および販売、加工物流事業	株式会社ゴルフジョイ ゴルフ練習場の運営
日清商事株式会社 食料品、飼料、園芸・季節商材等の販売	もぎ豆腐店株式会社 豆腐、油揚げ類の製造および販売
日清物流株式会社 港湾運送事業、倉庫業、各種流通加工業および配送業	ヤマキウ運輸株式会社 貨物運送、庫内荷役事業
株式会社NSP コンピュータシステムの開発、運用および管理の受託	日清オイリオ・ビジネススタッフ株式会社 建物内外の清掃業務ほか
大東カカオ株式会社 チョコレート原料の製造および販売	株式会社ピエトロ ドレッシング、パスタソース等の製造販売事業、レストラン事業、通信販売事業
株式会社日清商会 油脂製品、食品大豆、冷凍食品等の卸売業	和弘食品株式会社 調味料、天然エキス等の製造および販売
株式会社マーケティングフォースジャパン 流通分野におけるマーケティング業務および人材派遣	幸商事株式会社 油糧、油脂、洗剤、化成品、食品材料の販売
日清ファイナンス株式会社 生保・損保代理店	

グループ主要会社（海外）

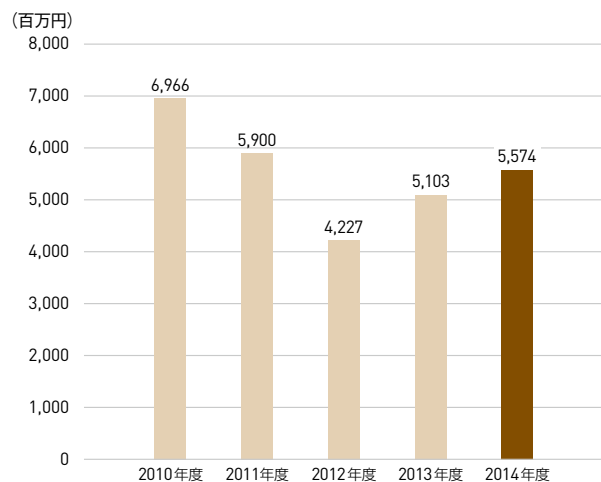


財務データ (連結)

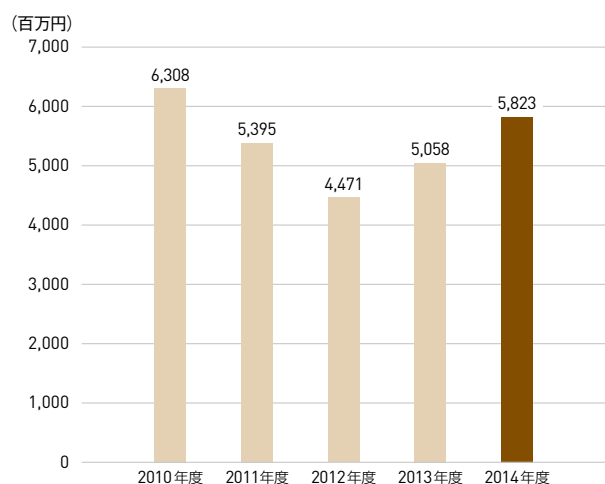
■ 売上高



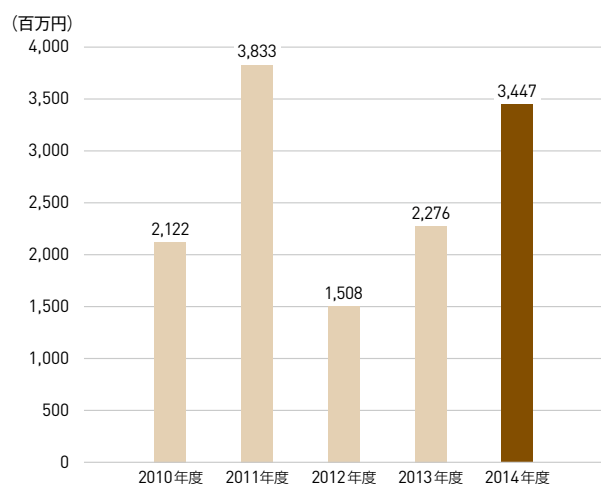
■ 営業利益



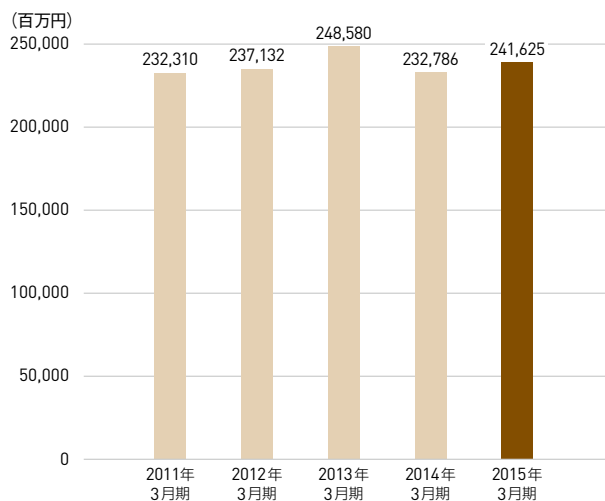
■ 経常利益



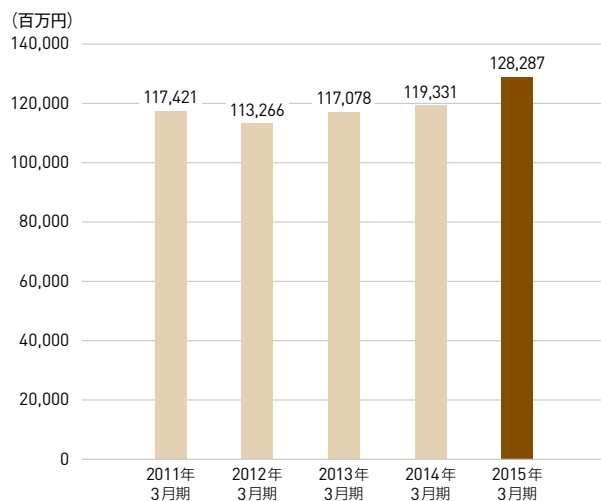
■ 当期純利益



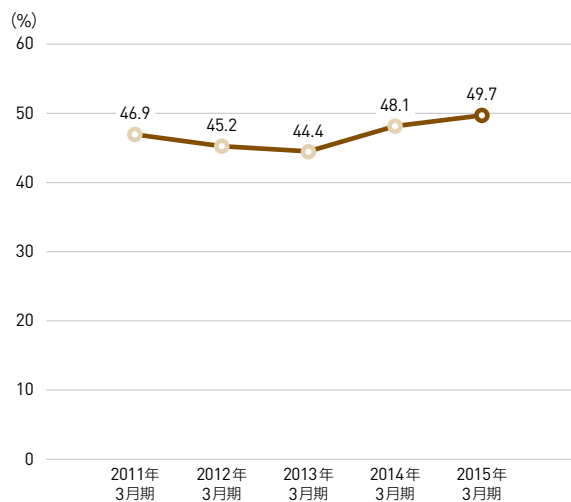
■ 総資産



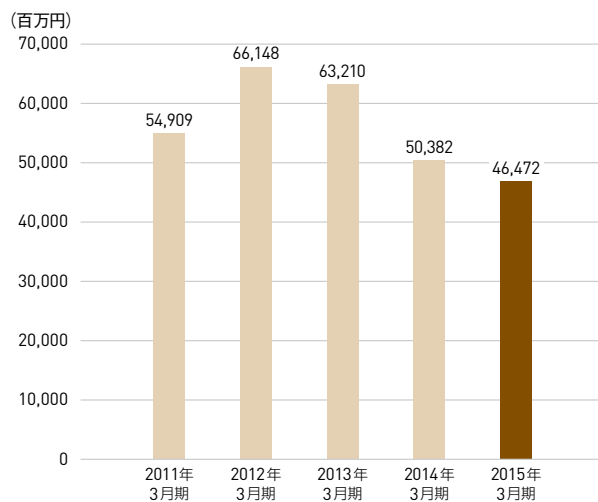
■ 純資産



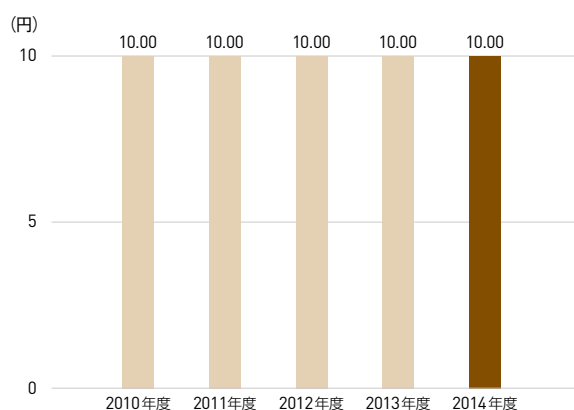
■ 自己資本比率



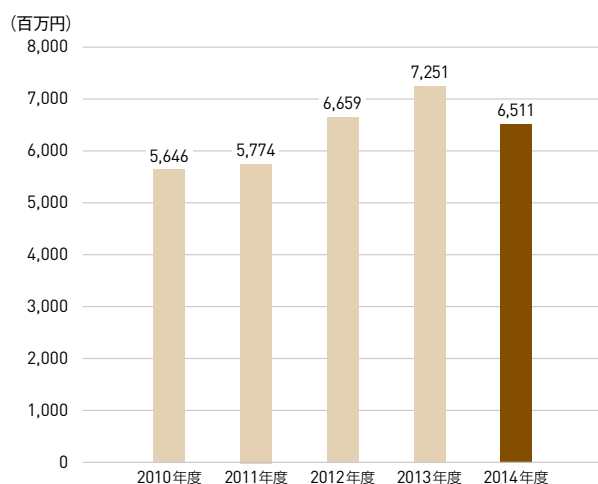
■ 有利子負債



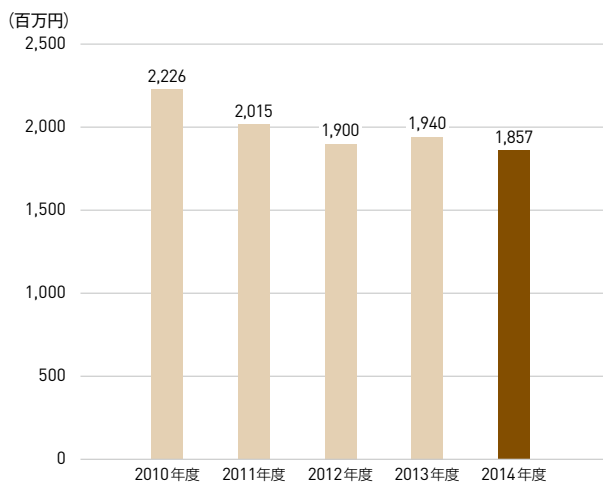
■ 年間配当金



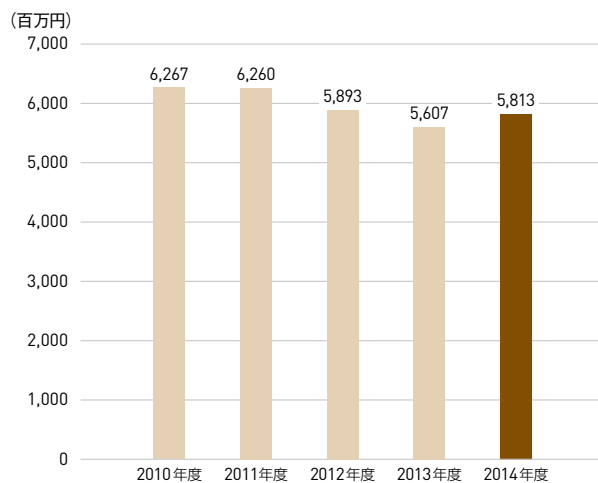
■ 設備投資額



■ 研究開発費



■ 減価償却費



編集方針

「コーポレートレポート」発行にあたって

日清オイリオグループは、2000年より「環境報告書」を、2006年より「CSR報告書」を発行してきました。2015年より、ステークホルダーの皆様当社グループの事業活動全体をより深く理解していただけるよう、「CSR報告書」と「会社案内」を統合し、「コーポレートレポート」として発行いたしました。



編集方針

「コーポレートレポート」は、当社グループの概要や中期経営計画、財務情報や企業の社会的責任（CSR：Corporate Social Responsibility）として1年間取り組んだ活動について、特にステークホルダーの皆様にお伝えしたい内容を掲載しています。

また、当社グループの事業活動に関する定量データを3年分掲載した「CSRデータ集」や、そのほかのCSR関連情報は当社のホームページで開示しています。本冊子とあわせてご覧ください。



日清オイリオグループ ホームページ <http://www.nisshin-oillio.com>

情報開示の方法

当社グループのCSR活動について、以下の形態で情報を開示しています。

『コーポレートレポート』冊子、PDF

『CSRデータ集』PDF

『日清オイリオグループ CSRサイト』

<http://www.nisshin-oillio.com/company/csr>

報告対象範囲

● 対象期間

2014年4月1日～2015年3月31日

一部に当該期間外の取り組みが含まれています。組織・役職名は2015年6月末現在のものを記載しています。

● 対象範囲

日清オイリオグループ株式会社と連結子会社（国内・海外）を含むグループ全体を対象としています。ただし、環境パフォーマンスデータと一部の取り組みについては、日清オイリオグループ株式会社単体を対象としています。（報告書中での表記について、日清オイリオグループ株式会社単体を「当社」、日清オイリオグループ株式会社と連結子会社【国内・海外】を含むグループ全体を「当社グループ」としています。）

発行

2015年7月（前年度：2014年7月、次年度：2016年7月予定）

ホームページでさまざまな 情報発信を行っています

日清オイリオ's キッチン

食用油の選び方や揚げ油の温度の見方、また調理方法や油の捨て方など、“油の上手な使い方”について紹介しています。



<http://www.nisshin-oillio.com/kitchen>

わくわくレシピ

食用油を使用したさまざまなレシピを掲載しています。季節ごとのレシピのご紹介のほか、キーワード別、メニュー別、商品別でのレシピ検索も可能です。

<http://recipe.nisshin-oillio.com>

カラダにいいことたくさん、植物油!

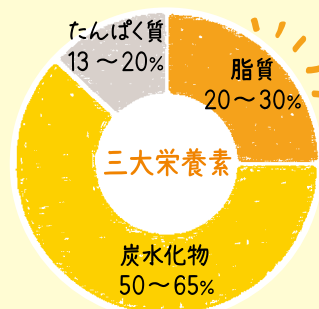
バランスのとれた食事を心掛けましょう。

バランスのとれた食事は、私たち人間を心身ともに健康にしてくれます。油は身体に必要な栄養源。摂りすぎるのも、不足するのもいけません。

子どもの成長にも欠かせません。

植物油は成長期の子どもに欠かせない「必須脂肪酸」をたっぷり含んでいます。「必須脂肪酸」は人間の体内では作られず、食物から摂らなければならない成分で、大豆油などに多く含まれるリノール酸やアマニ油などに多く含まれるリノレン酸が代表格です。

健康上望ましい三大栄養素の
エネルギーバランス



参考：厚生労働省「日本人の食事摂取基準」
(2015年版)



油はおいしさのもとです。

植物油は毎日の食卓をおいしく豊かに彩るパートナー。油で揚げれば、サクッとパリッとおいしい食感に。炒めれば油と火のチカラで食材のうまみをギュッと閉じ込めます。

食卓で喜ばれるメニュー、2人に1人が揚げ物です。

当社の生活科学研究グループの調査*によると、「家族や友人に喜ばれるとき／ほめられるとき」に作る料理は2人に1人が揚げ物と回答しています。



* 「日清オイリオ生活科学研究レポートNo.29」より

最近話題のキーワード!

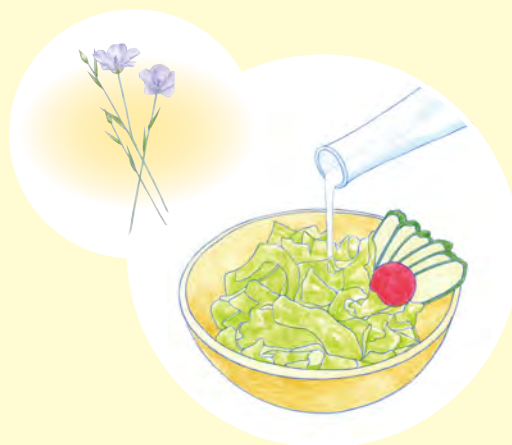
カラダにうれしい油脂成分をご紹介します。

オメガ3 (α-リノレン酸)

血中の中性脂肪を下げたり、高血圧を予防する作用があるといわれている健康成分。絶対に必要なのに体内で作ることができない「必須脂肪酸」のひとつです。

α-リノレン酸はアマニ油などに多く含まれていますが、熱に弱い性質を持っているため、そのまま召し上がったリ、サラダにかけたりジュースなどに混ぜてのご使用がおすすめです。

そのほかの注目成分、**中鎖脂肪酸**については特集(P14,15)にて詳しく紹介しています。あわせてご覧ください。



植物油について
もっと詳しく知りたい方は
こちらをご参照ください!

「植物油の美味しいおはなし」

<http://sodan.nisshin-oillio.com/pdf/book.pdf>



日清オイリオグループ株式会社

〒104-8285 東京都中央区新川一丁目23番1号
お問い合わせ先：コーポレートコミュニケーション部
TEL. 03-3206-5109



この報告書は、印刷工程で有害な廃液を出さない、水なし印刷方式で印刷しています。
またインキには、揮発性有機化合物を含まない、植物性の Non-VOC インキを使用しています。